

菜の花プロジェクト

令和元年度佐野市市民活動モデル町会支援事業の助成団体として採択された梅園町会では、「菜の花プロジェクト」を実施しました。

耕作放棄地をどうにかしたいとの思いで始まったこのプロジェクトは、放棄地を菜の花畑にすることで、土地の維持管理において効果的であり、猪や鹿などの鳥獣害対策にもなります。

3月12日（木）、梅園の菜の花畑を訪れると、あたり一面に咲き誇った菜の花が出迎えてくれました。



小さな春を探しに

3月14日（土）、東京都心は真冬並みの寒さの中、ソメイヨシノの開花が発表されました。1953年からの観測史上最も早い開花となったそうです。

その翌日、佐野での小さな春を探しに出かけました。すっきりと晴れ上がった気持ちのよい青空の下、まずは「万葉自然公園かたくりの里」へ行きました。か



咲き始めたかたくり

たくりの群生地では、可憐なかたくりの花がきれいに咲いていました。カメラを片手に散策している人もいました。次に、「城山公園」に向かいました。たくさんあるソメイヨシノの木にボツンと咲いている花を見つけました。暖冬のおかげで思ったよりも早く佐野の小さな春を感じることができ、本格的な春が待ち遠しくなりました。



一輪のソメイヨシノ

（市民記者 尾島民江）

「釣れた魚はみんなニガッパヤベー（ぼっかり）で、ホンバヤなんか1匹も釣れなかったよ。ガマ（魚の隠れ場）には、ホンバヤがすいすい泳いでるのがメール（見える）ンだけだねえ」

水の上のよんだ場所には、暗褐色で頭でつかちのカジツカという魚がいます。浅瀬でほとんど動くことなくじっとしています。

水のすんだ川で砂のあるところや池などには、どじょうの一種である「しまどじょう」という魚がいます。からだの長さは8cm程度で茶色っぽく、横一列に黒っぽい斑点がいくつもあり、いつもからだを伸ばしてじっとしています。この魚を方言で普通バスコあるいはババスコといいますが、スナムグリ・スナモグリともいいます。溪流（けいりゅう）には、からだの側面に黒っぽいまだら模様のある「山女魚（やまめ）」がいます。この山女魚を方言でヤモーといいますが、ヤモーは山魚（やまうお）が訛ったものといわれています。

（市民記者 森下喜一）



川魚の方言「ババスコ」は、
姿も名前も消えてしまった？

令和元年度「市政に関するアンケート」の 調査結果をお知らせします

このアンケート調査は、市民の皆さんが市政や生活環境についてどのように考え、何を望んでいるかを把握し、今後のまちづくりの参考にさせていただくことを目的として実施しています。

調査に当たり、多くの皆さんにご回答いただきありがとうございました。主な結果は以下のとおりです。

佐野市の住みやすさについて

●佐野市が快適で住みやすい地域であると思いますか

1	そう思う	27.5%
2	どちらかといえばそう思う	52.1%
3	どちらかといえばそう思わない	9.2%
4	そう思わない	5.9%
5	わからない	2.3%

●佐野市に住み続けたいと思いますか

1	これからも住み続けたい	49.7%
2	どちらかといえば住み続けたい	27.2%
3	どちらともいえない	15.8%
4	どちらかといえば住みたくない	3.8%
5	住みたくない	0.6%

※集計は小数点第2位を四捨五入してあり、また無回答数を表示していないため、合計100%にはなりません

市政全般について

本市が取り組む施策について、38の項目をあげ、調査しました。お答えいただいた回答のうち、上位5項目をご紹介します。

●今後のまちづくりに特に重要と思われる事項について

順位	今後のまちづくりに特に重要と思われる事項	意見率
1	高齢者福祉、介護保険サービスの充実	15.9%
2	中心市街地及び地域市街地の活性化	12.6%
3	住みやすい環境（生活道路、公園など）の整備	11.6%
4	医療機会・救急医療体制の充実	11.1%
5	商業・鉱工業の振興、企業誘致の促進	10.1%

今回実施したアンケート内容を精査し、
今後も市民の皆さんの声を活かした市政運営を行っていきます。

調査方法と項目

▶対象＝満18歳以上の男女2,000人 ▶調査方法＝郵送 ▶回収率＝994人（49.7%）

▶調査期間＝令和元年12月13日（金）～令和2年1月14日（火）

▶調査項目＝「佐野市の住みやすさ」「市政全般」「各取組に関すること」（計59問）

※調査結果の詳細、いただいたご意見は市ホームページに掲載しています

※くらし・行政ページの「市政情報・入札」から「広報・広聴」「ご意見の提出・問合せ」の欄に掲載しています

■問合せ＝都市ブランド推進課 ☎（20）3037

